

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600583		
法人名	株式会社 アイ・ディー・ジャパン		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ		
所在地	岐阜県揖斐郡大野町稲富字大明神前1108番地の3		
自己評価作成日	平成30年8月30日	評価結果市町村受理日	平成31年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JivvosyoCd=2172600583-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成30年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節のものを取り入れたお食事。献立をあえて先に立てず、その日の気候や利用者の様子などで献立を考え、食べる力が低下したり食欲が落ちている利用者様でも食べることで元気を維持していただくこと。
家庭的でいつも笑顔。おひとりおひとりにきめ細かく対応。
なんでも言える環境。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である「家庭的な雰囲気」、「自立した日常生活」を職員は体現している。利用者一人一人の思いを大切に、解放的な空間の中で一緒に笑い、ゆったりと過ごせるように、日頃から雰囲気作りを大切にしている。町から少し離れているため買い物などの外出手段は車だが、ホーム前に神社があり春になれば桜を愛で、神社前のお地藏様に散歩がてら手を合わせる、ホーム前の用水路ではホテル観賞、夏には揖斐川の花火大会を皆で楽しむなど季節や昔の思い出を感じながら日々過ごしている。ボランティアの訪問やボーリング大会などレクリエーションを行ない、訪問看護と連携して異常の早期発見に努めるなど、利用者が毎日明るく元気に過ごせるように工夫をしているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	長年馴染みを持って生活してきた地域で暮らし続けることが老人にとってどう有効なのかを理解しどう支援につなげていくかを考えている。	理念を事務所等に掲示している。日常生活の中、利用者が住み慣れた地域で自分らしさを発揮できる支援を職員は話し合い、実現できるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員の方に推進会議に参加していただいたり、ご近所の方との交流をごく自然にしている。玄関にかざる鉢植えをくださったりとってもいい関係となっていていっている。	野菜、花など近所からの差し入れや、草取り、地域の祭りでの子供みこしなど近隣に住む人達と触れ合う機会が多い。また、ボランティアが定期的に訪れ、レクリエーションを楽しんでいる。	定期的なボランティアの訪問などを続けているが、利用者の楽しみを増やすためにもイベントを増やしたいとの考えである。今後期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けてここがどういった施設なのかを知っていただくために、道路側に向けて張り紙をしたところ、ご近所の方がそれを見てたずねて来られた。今後も続けたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回実施報告や施設の今の状況などをお話しし、ご意見やご感想をいただいている。その内容をスタッフ内でも共有し以後のサービスに活かすようにしている。	2ヶ月毎に地域包括支援センターや民生委員、他法人のグループホーム、家族が会議に参加をしている。ホームの状況報告の他、ホームの取り組みに対して参加者と意見交換をしている。	ホーム運営に家族の意見がさらに反映されるように会議への参加が増えることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターから運営推進会議への参加をしていただいている。その他必要時には役場に直接出向き相談をするなど普段から関係を築いている。	毎月の地域包括ケア会議に参加し、相談員や民生委員、医療関係者と連携を図っている。利用者の認定更新や相談などで役場へ足を運んでいる。また、生活保護の担当者とも定期的に連絡をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設け、全スタッフが委員となり身体拘束防止マニュアルの内容などをきちんと理解し、身体拘束がない施設づくりに取り組んでいる。	言葉がけやタイミングを計りながらの対応で利用者の気持ちを受け止めている。帰宅願望などは言動を止めることはせずに安全面に配慮しながら、一緒に外に出ている。スピーチロックにも気をつけており、発してしまった職員には指導をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は法律に反するという事だけでなく、利用者の人権を奪い、そして認知症の症状も悪化させる行為でありそういった知識の下で虐待につながるような追い詰められた状況も作り出さない環境作りにもつとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護を利用しなければならない案件はないため活用にな至っていないが、今後必要になることが考えられるため細かく知る必要があると考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にも出来るだけ不安な要素がない様に説明を行うようにしている。契約時には契約書及び重要事項説明書を確認しながら説明し、丁寧に説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の力を入れている点にもあるように、何でも言えるような環境を大切に要望や疑問を言ってくださるような対応を大切にしている。もちろん大切なご意見として反映していく。	面会時や電話、ホーム便りで家族に利用者の近況等を伝えている。家族がホームへ意見できるようにと雰囲気づくりに留意している。出された意見、要望等は検討し、反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングには本社からも参加をし、普段からも積極的に施設と関わり直接的な声を聞けるような環境を築いている。	職員の資格取得に向けた支援を行ない、取得後は本人の意向を重視しながらスキルアップできる環境づくりに努めている。日頃から管理者は職員の話聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を実施し、スタッフ個人個人の評価を行っている。自己採点を行うことにより個人でも自身の仕事への評価を考える機会となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフミーティング内に研修の時間を設けたり、外部の研修に参加するような機会もある。その他初任者研修を受けていない新人に対しては受講の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に地域内の施設管理者に参加していただいたり、地域ケア会議に参加したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にアセスメントをとり、必要なことをお聞きし汲み取り、援助の内容を考えている。なるべく早い時期に不安をなくし、落ち着いた生活が出来るような関係づくりを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が感じてこられた不安や苦しみや困難をお話しいただいたりして、施設にどのような要望をもっているのかなどを考えてよりよい関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用時にお話をする中で異業種のお話もすることが多い。今どのような援助が必要なのかを一緒に考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な施設であり、すべての距離が近く安心して過ごしていただけるような関係づくりをめざしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活が始まるとどうしても家族との関係が遠くなりがちであるが、いい距離感という考え方もお伝えし、良い関係を作っていたできるように目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会にはなるべく制限を持たない様にご家族にもご協力を願いながら、なじみの人との関係が継続できるように努めている。	家族や友人の訪問がある。利用者が長く暮らすことで交流が減る現実はあるが、地域行事への参加や季節の外出をしている。ホーム前の地蔵参拝、用水路のホタル観賞やめだか飼育は昔を懐かしむ機会でもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	過ごしていただく場所などに配慮し、話が出来たり、助け合ったりを自然にできるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談などの実施例はないが、利用が終了しても施設に来てくださることをお待ちしている旨はお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	少人数のホームであることを活かし、おひとりおひとりの表情や様子を常に把握しながら援助している。常に本人本位で検討するようにしている。	日々の関わりの中で言葉や表情、行動などから思いを推し量り、把握に努めている。また、家族からの情報を支援に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にアセスメントを取る際に今までの暮らしをお尋ねするようにしている。ご家族にも都度尋ねるなどして情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月モニタリングを実施し、変化を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のスタッフミーティングにてそれぞれの意見を出し合い、介護計画に反映するようにしている。	毎月のミーティングで利用者について話し合いを行なっている。また、3ヶ月毎にモニタリング、介護計画を見直している。サービス担当者会議を行なっているが、家族の参加が少ない。	介護計画作成の過程において計画作成者だけでなく、職員や家族のかかわりが今より深まることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の有効性を職員間で感じるようになり、個別記録に記録をつけ、職員間での情報共有に活かしている。ミーティングの時なども時期を把握しながら変化について話すなど有効である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人個人でいろいろな家族背景があるため、多機能に対応しないと対応しきれない状況であるため柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で暮らしていることを常に意識し、必要な時には利用できるように考える。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院の指定などは特にはしていないが、月に2回おおのクリニックの往診があり、医療については常に相談ができる状態である。	内科や歯科の往診を利用している。他科受診は基本的に家族対応だが、職員が代行するなど柔軟に対応している。24時間対応の訪問看護とは日頃の相談や緊急時のバックアップなどで連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師が毎週訪問している。急変時等は24時間体制で相談に乗ってくださったり医療に専門的な目での意見をしてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者と今後についての話をしたり、どのような状態になれば戻ってこれるのかなどを相談したりしている。なるべく早く退院して、元の生活に戻れるようにしたいと考える。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度になったらどうするかなどは利用開始時にも確認をするがなかなかその状態にならないとご家族の意向も決まらないため、機会をみながら確認を行い希望の把握やどの程度の対応なら可能かなどを話している。	ホームは、利用者が一時的に寝込んだとしても食事を考え再度離床できる支援に努めている。重度化や終末期を迎えるにあたっては利用者や家族の意向を踏まえて、医師、訪問看護、ホームが連携をとり、利用者の最適な環境を整えるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練に救急対応も組み込み実施している。実際に救急搬送までの間に実践したこともある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度の避難訓練を行っているが、同じ状況ばかりでなくいろいろな状況での災害を考えて避難をおこなっている。地域にも災害時には協力していただけるように推進会議の時などをお願いしている。	避難場所が離れているためハザードマップで災害地域を確認したり、備蓄品の充実に努めている。オール電化のため漏電対策を行っている。また、救命講習を受講している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮が必要な介助や声かけを行う際にはおひとりづつ丁寧に対応するように心掛けている。	利用者のペースで過ごせる支援に努めている。支援が必要な場合も、まず本人の気持ちを大切にしたり、さりげないケアを心がけたり、自己決定がしやすい言葉かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思を表出しやすいようにしているが、言えない方も中にはいるのできちんとお聞きしたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れはあるものの、施設の特徴を活かし個人のペースや思いを尊重した対応ができるようにつとめている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望をお聞きしながらその日の服装を選んでいる。起床時には整容をし身なりを整えている。床屋は2か月に1回訪問整容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	どんなものが好きかなどを伺ったり、日々の食事の中で様子を見て判断したりして献立きめの中でも反映している。利用者の出来ることに合わせてお手伝いをしている。	その日のメニューは冷蔵庫にある食材からバランスを考えて職員が調理している。お好み焼きや焼き肉など皆で作ったり焼いたり、おせちなどの行事食がある。クリスマス会には家族を招待して楽しく食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎食記録に残し適正な量が摂取できているのかの確認を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身の持つ能力ごとに援助内容は違うが、口腔内の健康状態を保つ有益性を理解し、ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンなどは個人で違うため、その都度誘導や介助を行い一律な介助はしていない。オムツの使用などはなるべく最終的な手段と考え、夜間でも排泄介助をなるべく行っている。	排泄チェック表などから利用者個々のパターンを把握して、おむつではなくトイレでの排泄を促している。こまめな声掛けで紙パンツから布パンツに変更になった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録などで便秘の状態などを把握し、水分の摂取量なども含め便秘の解消につながるよう考え実行している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	おおまかに時間は決めているが、入浴は1人ずつおこない、ゆっくり気持ちよく入浴していただけるように対応している。	週3回ほど入浴をしている。おしゃべりや鼻歌等で入浴を楽しむ利用者は多い。時に気分によっては入浴拒否もあるが無理強いはずらずにタイミングを見計らって声掛けをしている。暑い時期はシャワー浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の様子を見ながら、無理のないよう休息していただくたり、夜も眠くなったら個々のペースでゆっくりと休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容などに興味を持ち、作用や副作用についても理解したうえでの支援となるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	理解やADLの低下によりなかなか役割を持っていただくような事が出来ない部分も多くなっているが、その人らしく暮らしていただけるようにという事を念頭において接している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援が積極的に行えない現状があるため、活発に行っていないが、気候が良くなってきたらADL等を考慮しながら外へ出られる機会も増やしていきたい。	1人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて対応している。ホーム前の地蔵や神社への参拝、用水路のホタル観賞、花の水やり、初詣、花見等の季節の外出などを行なっている。気候が厳しい時期は室内でのレクリエーションを増やしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事故防止のため現金の持ち込み、お預かりは原則行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居前に苦しんだご家族の事情もあり連絡をしないしてほしいという方も中にはおられるが、落ち着いたころにご家族と話し合い電話を掛けることを承諾していただくなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて生活していただけるように配慮してはいるが、掲示物などに大きく不穏を抱く方などもいるため、そういったことも含めて環境づくりをしている。	見渡せるLDKは整理整頓され、利用者が安全に過ごせる空間となっている。また、壁面には季節毎に利用者と一緒に作ったものを飾ったり、利用者の作品を展示しているが、落ち着いた雰囲気になるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士が話をしながら過ごせるように普段の席の配置などもおこなっている。好きな場所で過ごしていただくようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には新しいものとかではなく、自宅で使用していたものをお持ちくださるようになるなどの話をしている。実際に気に入っている木彫りなどを持ってこられ、普段からそれを持ち過ごされるなどされている。	タンスや自作の木彫りの像など利用者が心地よく過ごせる物を持ち込んでいる。また、家族などの写真や、ホームで作った作品を飾っている。利用者の状態に合わせて家具を配置するなど安全に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室選びであったり、過ごされる席の場所であったり、その方の生活に合った場所でご過ごしていただき、ご自分で判断し出来ることを継続していただけるように考えている。		